

する対応が急務とされています。今回、救急医療を中心にその歴史、災害・パンデミック対応を仙台医療センターの実例とともにご紹介いたしました。さらに、今後の高齢者救急の急増に対する医療・介護提供体制構築の重要性、特に在宅診療・訪問看護、高齢者介護施設と二次救急病院との医療連携体制を成立させる必要があり、そのためには高齢者搬送の効率化、適正化が不可欠であることを先進事例とともに報告させていただきました。

招待講演1では福聚山慈眼寺住職の塩沼亮潤大阿闍梨に「人生生涯 小僧のこころ」と題してご講演をいただきました。「小学生の頃から千日回峰行を志した私は、19歳で金峯山寺の修行道場の門をたたき、小僧時代を経て、1991年から9年をかけて大峯千日回峰行を満行しました。そして、本山での修行を終え、故郷である仙台にお寺を建てるべく戻ってきた私を待っていたのは、山での修行よりもはるかに自分が磨かれる「里の行」でした。」とお話され、「現実を受け入れ、愚痴らず精いっぱい生きると、そこに道が開けてくる。」とのお話に感銘いたしました。

招待講演2では東北大学第23代総長の富永悌二先生に「日本の新たな国立大学像をめざして」をテーマにご講演いただきました。「国際卓越研究大学という新たな制度が生まれ、東北大学がその第1号に認定された。研究システムの改革に加えて、教育、財務運営においてもシステム改革をはかり、大学の知を企業との共創により社会価値としてイノヴェーションを生み出し、外部からの収入を増加させ、優れた研究者を集めて知を生み出し価値創造につなげる好循環を作ることを目指している。」と今後の抱負を述べられました。

招待講演3では国立科学博物館館長の篠田謙一先生に「博物館の挑戦－古代ゲノムが語る日本人の成り立ち－」をテーマにご講演いただきました。古代ゲノム研究が明らかにしつつある日本人の成立の過程について、現時点でのシナリオを紹介され、このような研究を行うための資料を収集・保管・研究するための中心的な施設である博物館の現状についても解説し、これからの博物館の目指す姿についても紹介していただきました。

特別講演1では東北大学災害科学国際研究所所長の栗山進一先生に「巨大災害における保健、医療、福祉の役割」についてご講演いただきました。巨大災害のすべてのフェーズにわたって、保健、医療、福祉の活躍が期待されている。発災直後は、救命救急とともに、臨床や避難所等における災害関連死予防、さらに発災後

中長期的には、コミュニティ崩壊や2040問題の加速に対する対応等、福祉面での対応が必要なことを説明していただきました。今後の災害対策に生かして行きたいと思います。

特別講演2では厚生労働省事務次官の伊原和人先生に「2040年に向けて、これから医療を考える」についてご講演いただきました。「75歳」の次は「85歳」対策、特に認知症対策が肝要とされ、人生100年時代の健康寿命延伸、医療・介護現場でのデジタル化の徹底、地域事情に即した持続可能な医療・介護の提供体制構築、特に人材の偏在是正、能力に応じて全世代が公平に支え合う医療保険制度の実現などの課題について理解を深めることができました。

特別講演3では社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院グループ理事の武藤正樹先生に「今後の高齢者医療の動向 ポスト2025年のロードマップ」についてご講演いただきました。2024年には医師の働き方改革で医師の労働時間上限規制、第8次医療計画、新たな地域医療構想の取りまとめ、医師確保計画、医師偏在対策などがスタートしています。団塊世代の後期高齢者化は医療介護福祉の供給体制に最大級の変化をもたらすことが予想され、それぞれの政策の歩みを振り返りながら行方を解説いただき、これからを考える機会となりました。

教育講演1では東北大学加齢医学研究所スマート・エイジング学際重点研究センター教授の瀧 靖之先生に「大規模脳画像データベースから見る脳の加齢と認知症予防」についてご講演いただきました。大規模脳画像データベースから得られた認知症予防の多くの知見とともに、認知症予防に関する産学連携、社会実装に関して包括的に議論されていることを紹介いただきました。



会場風景